第２回 西脇市子ども・子育て会議　教育・保育部会　議事録

日　時	平成28年７月29日（金）　15時30分～17時00分
場　所	西脇市生涯学習まちづくりセンター　ﾏﾅﾋﾞｰﾀﾎｰﾙ
参加者	瀧川委員、松尾委員、伊達委員（部会長）、堂本委員、仲田委員、藤原委員 カリキュラム策定委員 大前委員、山口委員、増田委員、宮崎委員、小篠委員 小林委員 事務局：　竹内学校教育課長、松本教育研究室長、 杉本学校教育課主査、荒川学校教育課主査 清水こども福祉課長、鈴木こども福祉課主幹
議　事	⑴　西脇市就学前教育・保育カリキュラム ビジュアル化カリキュラム作成について ア　経過 イ　各年齢担当からの報告 ウ　まとめと今後の課題 ⑵　その他
資　料	・ 会議次第 ・ 委員名簿 ・ 資料１　西脇市就学前教育・保育カリキュラムの「ビジュアル化」について 別添１　中間報告
傍聴者	３名

１．開会

２．議事

⑴　資料説明 ・西脇市就学前教育・保育カリキュラム　ビジュアル化カリキュラム作成について	
部会長	事務局から資料の説明を願いたい。
事務局	平成27年度に作成した、西脇市就学前教育・保育カリキュラム「０．１．２歳児」及び「３．４．５歳児」（案）を基にビジュアル化カリキュラム（案）を作成している。

	過程については、作成にあたって、別添１の中間報告を見ていただくと、まず「各年齢の発達の特徴」あげている。これは、同年齢の均一的な発達の基準ではなく、一人ひとりの子どもの発達的過程として捉える。 その次に、「養護及び５領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の心情・意欲・態度」について記載している。 写真について資料１のとおり。５領域は資料１のとおり。 「心情」は、遊び始めのものや、心が動き始めたもので、「～する楽しさ」「～することを楽しむ」ことを意識して読み取った写真。 「意欲」は、継続性のあるもので、「もっと～したい」「進んで～したい」という子どもの感情が読み取りやすいものを選んでいる。 「態度」は、何度も似たような経験や同じような経験が積み重なってくる中で育ってきて、自然にできるようになっている、いつの間にかできるようになっている姿の写真を中心に選んでいる。 写真の選び方は、資料１のとおり。 次に、今年度のカリキュラム策定委員会は、３回開催した。第１回は、ビジュアル化カリキュラムの作成について、作成の仕方、形式、写真の枚数や選び方、「心情・態度・意欲」の捉え方、各園で担当して頂く年齢及び領域などを協議いただいた。カリキュラムを作成する担当は、年齢別に決定した。次回まで、領域の「環境」または「人間関係」を作成することにした。 第２回は、各園より作成いただいた資料に基づき、写真・吹き出し・写真の読み取り・保育者の役割について、文言表記の仕方のポイントを確認した。そして、「０歳児～２歳児担当」と「３歳児～５歳児担当」の２グループで、各年齢の内容を検討した。第３回までに、各園担当の年齢の領域を作成し事前に提出した。 第３回は、「０歳児～２歳児担当」「３歳児～５歳児担当」の２グループで全領域の資料について検討した。内容は、吹き出しの文言の追加、写真の読み取りを深めるための言葉の修正、保育者の役割の内容を深める。３回目の検討事項を各園で修正し、再度資料を作成し提出頂いたのが、今回の中間報告資料である。
部会長	今の経過報告だが、良いと思う。「このような視点で写真を選びました。」というのは『心情・意欲・態度』について「このような視点で写真を見てください。」という風に読み取ったが。『心情・意欲・態度』についてこういう観点で写真を見なさい。」と捉えていて、大変良い説明だと思うので、補足説明で書いておいてほしい。

	すごく基本的なことであるが、０歳児というのは、11か月までを０歳児という解釈でよいのか。
委員 （学識経験者）	補足で説明させていただく。昨年度、ビジュアル化以前のカリキュラムを作った段階で、そのことの議論があったが、０歳児と考えた時に捉え方が２パターンある。まず一つは、生後間もない頃から１歳の誕生日を迎えるまでを０歳児という。１歳児というのは、初めての１歳の誕生日を迎えてから２歳の誕生日を迎えるまでという捉え方がある。もう一つは、「クラス」という考え方で、「０歳児クラス」という捉え方をすれば、入所した時の月齢が０歳児でも、８か月の子もいれば11か月ですぐに１歳の誕生日を迎える子もいる。また、１年の中で新規入所・入園という方もいるので、０歳児というより「０歳児クラス」という幅をもたせた捉え方で考えている。 そのため「０歳児クラス」の到達目標と考えてしまうと、誤解が生じるのは、０歳児が皆、「態度」まで育っていかないといけないという風になる。特に乳児保育と言われる０・１・２歳児には子どもの月齢の差がかなり大きいので、そのように考えた時にある子どもは「心情」「意欲」という部分でだんだん育ってきたな、「態度」に向けて今育ちつつある子どももいれば、月齢の高い子どもであれば、「心情」「意欲」「態度」の「態度」のあたりまでしっかり育ってきているという子どもいる、ということが１年を通じて、年度末に向けて、見通しを持って保育をしていくための指標と考えていただければと思う。昨年の経過を含めて補足の説明をさせていただく。
部会長	「０歳児クラス」「１歳児クラス」ということなので、４月のはじめには、数か月の子もいれば、11か月の子もいるということである。それを踏まえて、各担当からの説明をお願いする。
策定委員	【０歳児　養護】 資料の２ページをご覧いただきたい。０歳児の発達は、次のとおり。 ・身体的な発達が、活発になる。 ・特定の保育者に応答してもらうことで、情緒が安定する。 ・特定の保育者とのかかわりで愛着関係ができる。 などをふまえて写真を選んだ。 援助や留意点で大切に考え、作成したポイントは、 ・一人ひとりの生理的欲求を満たし、生活のリズムを整えることができているか。

	・子どもとのかかわりの中で、心身・健康状態を把握することができているか。 ・心の安定を図るために、保育者の愛情豊かなかかわりができているか。 ・一人ひとりの依存要求を満たしながら、応答的な触れ合いができているか。 　などを考えて、保育者の役割を考えた。 　８か月頃の人見知りなどの不安な時期には、子どもの不安な気持ちを受け止め乗り越えていけるような援助について考える。情緒の安定を図るためには、特定の保育者とのかかわりが必要と考えられるが、日々の保育の中で実践するには、保育者間の連携や協力が必要であると思う。そのような意味から、保育者と１対１での写真となった。
事務局	各年齢の担当だが、０歳児には、主に「養護」の領域について発表いただき、１歳児は「健康」、２歳児は「表現」、３歳児は「人間関係」、４歳児は「言葉」、５歳児は「環境」と領域を分け、その部分を報告いただく。
策定委員	【１歳児　健康】 　資料の９ページをご覧いただきたい。１歳児の発達の特徴としては、指先がまだまだ発達途中なので、１本ずつの指を細かく動かすことが難しく、親指とほかの４本指という動きが多くなる。ご飯を食べる時は、スプーンを握って持つが、上手くすくえずにこぼれてしまったり、口の前まで上手く運んでも、スプーンを口に入れる時に、落としてしまい、食べられなかったりする。 　指先の発達を促すために、ブロック遊びや洗濯バサミのようなクリップ遊びを取り入れている。その遊びの中で、ブロックを長くつなげられたり、クリップを「上手につまめたね」と声をかけたりしながら、楽しく繰り返し遊べるように心がけている。 　外遊びでは、足を上げて階段を上がったり、滑る感覚を楽しんだりと様々な体の動きを通して全身を使って遊べる。同じ滑り台でも、階段の形状が違えば、使う体の部位や、どうしたら登れるかを考える必要も出てくるので、このようなこともねらいとして、様々な遊具や遊びに誘うようにしている。このように、１歳児の発達に合わせて援助し、できることが増えていく喜びを感じられるようにしている。
策定委員	【２歳児　表現】

	21ページをご覧いただきたい。２歳児は、自我が芽生え、自己主張が出てくる年齢。「自分でする」「作ってみたい」「表現してみたい」という気持ちや自主性が芽生えてくるので、その子どもたちの気持ちを大切に、普段の遊びから少しずつ自分が出せるように、子どもたちの良く出来ている所を認めたり、楽しさを共感したりしていくことで、「もっと楽しみたい」「表現したい」という意欲を高めていくことが大切だと思い、「保育者の役割」として考えた。 また、個の遊びから広がりが出て、友達とのやりとりや少しずつ一緒にかかわることができるようにもなってくるため、保育者として、上手くかかわることで全体的な遊びであったり、表現ができるように子どもたちの気持ちが引き出せる工夫や言葉がけが必要な年齢だと思う。 写真を選んだポイントは、次のとおり。 「心情」は、普段の粘土遊び、手で粘土を触りしっかりとその感覚を味わっている様子。保育者とのやりとりの中で､保育者が作った物を見て、自分も真似たり作ったりしてみたり、さらに型抜きへと遊びを工夫している様子が分かる。 「意欲」は、身近な小動物は子どもたちも大好きなので、歌や曲に合わせて身体表現をしている様子である。戸惑う事なく、自分がイメージしたままに、素直に笑顔で表現している所が良いと思った。 「態度」は、子どもたちは遊ぶことが大好きである。ジョイントマット（遊具）を使い、保育者が「お風呂を作ろう」と言うことで、全体の遊びへと発展している様子である。保育者の言葉がけにより遊びが広がり、子どもたちも遊びや雰囲気を楽しむことができていると思った。
委員 （学識経験者）	補足をさせていただく。今、写真でビジュアル化をしているが、この写真に載っている活動をしてくださいという意味で載せているのではない。あくまでも、文字では分かりにくいのでイメージ的な写真の意味合いである。読み取り方も含めてのイメージ写真なので、写真のような場面にするためものではないということを、カリキュラムの前書きに入れておく方がよいかと思う。 そして、０・１・２歳児の写真を選ぶ時の難しさがあるかと思う。特に０歳児の写真を見ると、どの場面もほぼ１対１のかかわりに近い写真になっている。実際、保育の場面では、ずっと１対１でかかわり続けているわけではないと思う。どのような場面の写真を撮るかと考えた時に、理想として丁寧なかかわりから考えると、０歳児

	は１対１のかかわりがイメージの中の自分たちなりの理想であり、保育に「こんなことをやっていったらいいね」ということが伝わる写真を、先生方が選ばれた写真を見て、そのような読み取り方もできるのかなと思っている。
策定委員	【３歳児　人間関係】 ３歳児の発達の特徴は、語彙が増え、話し言葉の基礎ができる。自我がよりはっきりしてくるとともに、友達とのかかわりが多くなるが、実際には同じ遊びを、それぞれが楽しんでいる平行遊びであることが多い。日常生活において、経験したことをごっこ遊びに取り入れ、象徴機能や観察力を発揮して遊びの内容に発展性が見られるようになる。また、予想や意図、期待をもって行動できるようになる。こういった３歳児の特徴を踏まえて育つことが望ましい「心情、意欲、態度」の視点から読み取りに必要な写真を選んだ。 「心情」は、友達とのかかわりを楽しむということで、子どもたちがフープを使って迷路ごっこを楽しんでいる様子を載せた。フープが無造作に置かれたのを見つけて、２人はまずまっすぐに並べてジャンプしていただけだったが、だんだんと楽しくなってきたようで「迷路作ろう！」と言い出して、「ぐるぐる迷路！」「ぐちゃぐちゃ迷路！」と次々に形を変えて遊びだしていた。安心できる環境の中で、遊びが発展していくのに、遊具や用具が重要な意味を持つので、「保育者の役割」の中に道具を整える事を入れた。 「意欲」は、友達とイメージを共有しながら、様々な体験をするということで、新聞遊びの場面を載せた。梅雨時期だったので、室内で新聞ゲームをした後に新聞をちぎって、雪のように降らせて遊んだり、海に見立てて遊んだりした。最後に片付けをする場面で、「てるてる坊主を作ろう」と言い出した子がいたが、まだ新聞の海で遊んでいる子がいたり、集め出す子がいたりしている場面である。 ３歳児は、話し合いで、イメージや思いを調整するのは難しいので保育士が仲立ちをすることを「保育者の役割」に入れた。また、集団遊びやゲームなどをしても、勝ち負けの時に本当に悔しくて泣いてしまったり、怒ってしまったりしてしまうので、その子の気持ちに寄り添い、少しずつ勝ち負けのあるゲームや集団遊びの楽しさが理解できるように支援していくことも役割にした。 「態度」は、友達と遊ぶ中で、ルールやきまりを作って、それを守りながら遊ぶようになるということで、砂場の場面を載せた。２人は始め、並行遊びをしていたが、使う遊具が重なり声をかけたの

	がきっかけで一緒に遊ぶようになった。遊具を交代で使ったり、順番に水くみをして遊んでいる。まだまだ､言葉での表現が十分でないこともあるので、トラブルになることが多いが、ルールやきまりを守って遊ぶと楽しいと同時に、心地良いと感じられるように支援していくことを「保育者の役割」にした。
策定委員	【４歳児　言葉】 34ページを御覧いただきたい。４歳児は、自分の思いばかりを主張するのではなく、相手の思いや気持ちにも、耳を傾けようとする姿が表れてくる。友達への関心が深まってきて、一緒に遊ぶことのおもしろさや楽しさを言葉のやり取りで進めていこうとしてくる。そんな中で、自分にはない相手の思いや考えに気付いたり、共感し合えたり、一緒に遊びたい、一緒に遊びを進めていきたいという思いが表れてくると思う。そんな子どもの思いや考えが相手に分かりやすくイメージできるように、保育者が仲立ちとなり、橋渡ししていくことが大切だと思う。 また、うまく言葉で表現できない子や、そんな場面ではどう話したらよいか、話し方を知らせたり、代弁したりしながら、少しずつ自分の思いが伝えられるよう支援していく。そして、互いの思いを受け入れて、言葉で遊びが進められている場面があれば、その様子を認めていき、ほめ、更に展開していくのを見守っていくことが大切ではないかと考えた。このような事を踏まえて「心情、意欲、態度」の写真を選んだ。 「心情」は、楽しかったこと等、自分が体験したことを話しているところである。 「意欲」は、砂場で穴を掘っている場面。深く掘ると水が出てきたことがあって、今日もしようと張り切っているところである。 「態度」は、自分の思いを相手に伝え、相手が受け入れてくれている場面である。
策定委員	【５歳児　環境】 39ページを御覧いただきたい。幼児にとって、身近な自然や虫等、そばにあっても気付かないことが多い。知らせるとすごく興味をもち、発見を喜び、遊びや活動へ取り入れることができる。ゆえに、教師の知らせ方やタイミング、何をそこから感じさせたいのか、学ばせたいのかを明確にして、意図をもって保育することが重要である。その中から様々な気付きや心の育ちが見られる。 物の性質や数は、幼児が継続して試行錯誤して活動する中で、実

	感として分かるようにすることが必要である。そのために遊びをじっくり見つめ、どのタイミングでどう援助していくべきかを見極めることが大切と考える。 「心情・意欲・態度」の写真について、環境の次のねらいの部分の、写真を選んでいる。 「心情」は、友達と一緒に試したり、考えたり、工夫したり、気づきや発見を伝え合ったり、不思議さを感じたりしながら、興味や関心を深めていくことである。 「意欲」は、世話をする中で、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりしょうとすることである。 「態度」は、物の性質や数・量・形、時間などに対する感覚を豊かにすることである。
委員 （学識経験者）	補足をさせていただく。「心情・意欲・態度」の捉え方についてであるが、ミクロな視点とマクロな視点ということで考えていくことができるのかなと思っている。 例えば、今の時期の水遊びやプール遊びで、「また明日もやりたい」「次はこんなことがしたい」というのは、今の時期でも意欲として楽しいからこそ、またやりたいという気持ちが育ってくるし、またその活動の中でもっともっと楽しいとか、こうやったら面白いということは、ミクロな視点で、１つの遊びの中で感じる「心情・意欲」と捉えることができると思う。 その一方で１年通じて育っていくというスパンで考えた時に、まずは園生活に慣れて親しむ、そして楽しいな、面白いなという視点で「心情」を育てていく、そして秋ごろには、どんどん自分たちで遊びを進めていくという意味での「意欲」が育っていく。そして１年を通じて、年度末あたりには、自信をもって「もう僕たちにまかしといて」「もう先生いなくてもいいよ」というくらいのことが、年長の４歳児くらいになると育ってくる、という風なことを考えると、大きな意味での「心情・意欲・態度」という１年を通じての育ちがある。 そして、今回このカリキュラムを作成するにあたって、大きな視点での１年間の「心情・意欲・態度」という育ちのプロセスの視点から細かくおさえて項目を作っているので、そのことを前置きに書いておかないと、ミクロな視点での「心情・意欲・態度」というところと混乱が起きる。先生方の報告を聞きながら感じたので、補足をさせていただく。

部会長	ミクロ、マクロの視点は、指導していただく先生の手腕にかかっていると思いながら、これを全部ばらばらにばらした時に、また前後左右の文字をこのカリキュラムと同じ順番に大きく並べた時に、縦横は上手くいっているのかというのも写真の解釈、文章の解釈でまた違う解釈が出てきたりする。とても難しいことであるが、取り組んでいただきたい。御質問、御意見等、一言ずついただけたらと思う。
委員	初めは子どもと先生とのかかわり、そして子どもと子どもとのかかわりの中で、先生が助言していき、それがだんだん子どもたちの力で育っていくという過程が見えた気がする。そんな一連の過程が全体的に見えたら良いと思う。そのような点で本当によくやっていただいていると思う。これが全体の一つの表にした時に、全体的に理にかなっているのか、という点で再度見直さなければいけないと思っている。
委員	どの写真を選ぶのかを保育所の中で、先生方みんなが寄りながらされていたのはよく分かる。写真を選ぶのに、的確なものがあるのかどうかは、常に心に不安を抱きながらされているのは当然のことだと思し、的確なものと、そうではなく漠然としたものでいけるというものがあると思う。今日発表していただいたのは、担当された方だけであったが、苦労して写真を出されてきたのは感じた。ここまでご苦労様でしたと言いたい。 ただ、これを保育士、教育者が見たときに何を感じるだろうかと疑問に思うところがあった。もちろん感情的な部分で見る人もあるし、理論的に見る人もあろうと思う。初めから見せていただいた中で、例えば養護ばかりを見ると、０歳の養護は何だ、１歳や２歳には何が書いてあるのかという見方すると、もっと発達の段階が明確に見えてもいいように感じた。それと、「環境」では、あまり発達の変化はなくてもいいような部分で見られると感じる。もう一点、気になる点は「基本的生活習慣」という言葉が多く出てきていた。「基本的生活習慣」で、０・１・２歳でどの程度、到達目標という言葉もあったが、少なくともこの中には指標がいるのではないか。西脇市として、子どもをどのように育てようとしているのかという部分が見えるのではないかという気がする。 例えば、どこの保育園でも誕生日をめどにして取り組んでおられると思うが、誕生日を境にした子どもの変化が、もう少しこの中に明確に出てくると、３歳の誕生日を迎えたら、だいたいこの程度の

	ものはできているという資料になると、保育士が学べる資料になるのではないかと思う。しかし、されていることには感服している。
委員	何度か集まって、頑張っていただいた成果が少しずつ見えてきている気がする。発表されている中に、自信をもって言葉として表現されていることがとても大事だと思う。普段保育している中で、だいたいわかるけど、ぼやけている事が、みんなで話合っている間に少しずつ明確になってくることが多い。普段の保育の中で、「だいたいこれは結果的にいい方向に行くよね」というのが漠然とあっても、何故いいのかとか、何のためにしていくのか、目的を見失うことが多い。 毎年しているからこれはいい事だし、「子どもの発達にいいよね」というやり取りはあるが、しっかりと子どもたちに合った目標なのかという定めができずに日々が過ぎていくことが多い。写真１枚でも、目標に向けて、「こういう写真がいいのではないか」という話し合いをすることが大事で、この時間の間に、完璧なものができることではないと思うので、みんなが話を進めていくということが大切ではないかと思う。３回、４回の開催にあたって、園に持ち帰り、そこで相談したり話し合ったり写真を探したりすることが大きな成果になってくると思う。それは見えない成果だと思う。簡単に援助とか支援とか、子どもに対して言うが、取り間違えると、結果が良しとなり、言葉でやりとりをしているという認め方になると大きな間違いになる。その認め方によって、子どもたちを違った方向へ進めてしまう。大人の言葉は大きいので、安易に認めたら良というものではないと思う。 幼稚園では、できるだけ子どもたちが気付く方向への言葉がけを心がけている。この遊びはどのように取り組んでいくのかということを、２人いれば２人で話し合ったり、５人いれば５人で話し合ったりして進めていかないと、本当の意味ある保育の中身にはなっていないのではないかと思う。年齢の発達に関しては、大きな差はあり、５歳でも発達の遅い子もいる。個に合わせて、その子の発達を見ながらクラスの中で見ていくのが当たり前なので、そのことは４歳でも５歳でも意識して取り組み、子どもの実態を一人ひとりつかんでいくのが大事になってくると思う。
委員	保育所の現場からであるが、子どもの誕生月を非常に大切にしいる。それは、保育士の基準ではないかと思う。ところが小学校、幼稚園になるとあまり誕生月を意識しない。どうしてかというと、ど

	の保育所に行っても、何月生まれという掲示が必ずある。とても目につき、いつも意識している。「今月誕生日だから、ここまで出来るように」という、個々の子どもを大事にしている１つの証拠だと思っている。その子ども一人ひとりにかかわれる指標、基準みたいなものは何かそのようなものを頼りにしている気はする。だから、そこを考えてもいいのではないか。 「基本的生活習慣」にしても、その絡みを私は意識している。食べることについての基本的なもの、お箸の使い方は、この年齢だったら使えるようにならないといけないなど、特に低年齢児の部分では、もう少し細かいことが必要ではないかと思う。
部会長	例えば、おしめをはずすのは、誕生月ではずすより私の中では、２歳児の夏か、３歳児の夏で、夏にすべきと思う。冬場にするべきではない。その子の月齢や発達という見方をするが、月齢で進めるとややこしい。夏場の方がはずしやすいので、夏場に頑張って、冬場はあまり頑張らない、というのがその子にとっても、先生にとっても負担が少ないと考える。ただ、しないだけでなく、ちょっとやってみて、その子にとってのタイミングではないと思ったらすぐやめる。タイミングが合えば、本当に上手くできるし、タイミングが合わなければ何をやっても上手くいかない、それも子育てかなと思っている。
委員 （学識経験者）	補足をさせていただく。資料として載せるということで、「発達の目安」のところで考えると、カリキュラム上ではなく、補足資料として付けた方がいいのではと思う。内容としは、ベースになるのは、母子手帳に載っているような、「およそこのくらいの時期にこんなことできていますか、どうですか」という程度の事をベースにしながら、必要によって肉付していく程度のものでよいと思う。意見に出てきたような、「これが出来ている、出来ていない」などのように、細かくなりすぎると、保護者の方の混乱がある。載せるのだったら母子手帳を目安にしたら良いと思う。それとともに、各園で大事にされていることがあると思うので、これで完結ということではなく、今回のを一つのたたき台としながら、これが全体の西脇市のマニュアルではないということをおさえておいた方がいいと思う。
委員 （学識経験者）	個人差は、小学生、中学生あたりまではあるかなと思っている。例えば４年生でしたら、女子の方が発達が早くて、男子の方がゆっくり目で、女子が男子に対して、「こんなのもできないの？」とい

	うような場面が４年生くらいまであるので、月齢差の大きさが年齢が下になるほど大きいというのはあると思う。先生方が誕生月を大切にしておられるというのは、よくわかりますし、途中入園なのか継続児なのか、というところも非常に大きいかと思う。 　例えば、オムツをはずすタイミングでも、３歳児で途中入園してきた子どもが、まだオムツをしているという子もいれば、すぐに外れるだろうという状況でオムツをしている子もいれば、継続児で、すぐにオムツが外れた子、いろんなパターンがあると思う。この時期は個人差があると思うので、先生方が個に応じて臨機応変に対処しておられるというところでは、指標みたいなものも非常に大切だとは思うが、先生方の思いとしてどうなのかというところはまた、別になってくると思う。園の方針も絡んでくると思うので、少し考えていく必要があるかと思う。
委員	園の方針によって、例えば園長の思いがということだけで、済むものなのか？
委員 （学識経験者）	そういうことではなく、園の中でそれぞれ責任を持っていろいろされているというところがおありだと思うので、一律にしてしまうことがよいのかどうかと考える。
部会長	何のためにするか、はっきりさせていきたい。なぜ、お誕生日が必要なのか、そのことを園の中で話し合わないといけないし、なぜうまくつなげていく必要があるかということである。基本、自園は、上靴は必要ない、足の指の発達の方が大切だと思っている。ただ、小学校へ行った時には上靴があり、生活習慣を身につけることは大切である。小学校との接続という部分を考えた時には、トイレに行く時など必要である。 　園の事情などで到達点というのは難しい。お箸は毎年、持ってくるが、２歳でおさえたい。おさえていても、３歳児に進級した時には３歳の新入園児は、ほとんどがスプーンを持っている。一生懸命におさえたことが、またゼロになる。昔は園でしたら進級児の方が遅かったし、少なかったし、進級児が自分も頑張ってお箸にしようといういいサイクルがあったのに、今はそれがない。それでも、今の子どもたちと親を見た時に、自園の２歳児の秋冬にお箸を握らせるのは正しいのか、３歳の基本的な生活につなげられるのかを、ずっと話している。これは園長だけの考えではもちろんダメで、みんなで研修して、今、目の前の子どもや親を見ながら、どういう風にしていくのがよりよいのか、というのを研修し続けないといけない。

	基本的生活習慣だけで、１年かかる。
委員	５歳児でも、食べることに関しては、食べることを取るのかお箸をとるのかという段階の子はたくさんいる。お箸が持てない、食べることができない、今は食べることの方が大事というトライをすると、今はお箸は休止。お箸はどうするのかというと、お箸はまた別の時に何かの方法でやらないと、子どもを食事嫌いにさせてしまうという結果があり、本当に深刻になってきている。 それをどうするのかという手段は、園それぞれの工夫だと思う。でも、目標は同じ方向なので、やり方としては園の個性が出ていい、それが小学校のように教科書がない良さであると捉えていかないと、子どもに合うか合わないかが出てくると思う。同じ幼稚園でも、その年によって子どもの実態も違うので、その実態と合わせて考えていくのが本来大事なところではないかと思う。
部会長	私は、幼稚園・小学校のように、しっかり教育課程を作ってほしいと思っている。生活習慣の話になってくると、そうだなと思うところもある。 では、まとめと今後の課題について事務局よりお願いする。
事務局	先ほど委員の方々から意見をいただいいたが、今年作成したこのカリキュラムビジュアル化（案）は、各年齢別の領域で作成したもので、いわゆる縦の部分ができつつある。今度は、０歳児～５歳児の横の部分の整合性を図っていくところが、今後の課題ではないかと考えている。また、文言の修正と使い方の微調整がいると考えている。 まとめだが、次回第４回を８月４日の木曜日に予定している。ここで今、中間報告いただいたこのビジュアル化（案）を再度検討し、次の第５回８月27日（土）には最終案として、作成できるようにと考えている。そして、この最終案を「第３回教育・保育部会９月26日（月）」で報告をし、「子ども・子育て会議」に提案頂きたい。そして、１月にはカリキュラム説明会を開催する予定である。
部会長	難しいことだが、この「心情・意欲・態度」の取りまとめ方というのは、あまりないがオリジナルか？
委員 （学識経験者）	「心情・意欲・態度」というのは、幼稚園教育要領に基づいて、昔、教育課程を編成するという時から続いているということではある。その一方保育課程を作らないといけないとなった時に、2008年３月に告示され、そのあと保育課程をどう作るのかということで、ある雑誌であったり、本かマニュアルのように入れて、結果的に、

	表は埋まっているが１項目ずつしか書いてないということが実態としてあった。 　結局はそれが有効なのかどうかというと、各園で有効にそれを使っているところもあれば、保育課程で一応、職員上では作ったけれども実態としては、年間指導計画と結びついてないという園も、私が見聞きする中であった。その中で、幼児期に育てていくべき「心情・意欲・態度」をきちっとねらいとして、育てていくためには考えていく必要がある。昨年度、策定委員会が始まる段階で相談し、私自身の考えを伝え、今進んできているところである。その意味では、オリジナルといえばオリジナルであるが、本来の姿ではないかと思っている。 　先ほどの議論から、今後の議論へと考えると、まず一つは、タイムスケジュールとして次があり、最終報告（案）になるまでに、タイムリミットがほぼ１か月しかない。このことを考えると、先ほど議論で出てきたことすべてを（案）として、入れるのは難しい。十分に意見いただいたことを含めて検討していきたいと思うが、入れることが今回間に合わないことがあると思う。 　そこで今後の課題として、私からの提案である。今後事務局の方でも、この部会の中でも話し合っていただきたいことが２つある。１つ目は、いま国の動向として「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」が改訂されようとしている。「幼稚園教育要領」が先行する形になると思うが、その中で強調される「接続期のカリキュラム」、「幼児期におけるアプローチカリキュラム」、「小学校におけるスタートカリキュラム」をどう作っていくか、接続の視点として、今回、10の姿ということがキーワードになり、年長の終わりまでに育てたいことが出てきている。 　一つの提案というのは、現段階の中にそれを盛り込むことは実質的には難しいと思われるので、この部会とか継続してきた委員会を継続していくならば、来年度、接続期のカリキュラムという視点に方向づけていくことが考えられる。養護の側からすると年長児あたりで、何を育てないといけないのかということを、西脇市で作ってきたものと国の動向を合わせながらやっていく必要があると思っている。 　２つ目は、そのためにはカリキュラムがあっただけでは具体的ではないし、先程、お箸の持ち方を含めていつの時期からという話があったが、ある１つの事例として紹介するのではなくて、バリエー

	ションを考えて、例えば、「３歳児のお箸の持ち方指導はこうやっていますよ」「４歳児ではこうやっていますよ」というような、いろいろ事例として、写真１枚でも出していただくことで、バリエーションでどの選択をするのか、どの園でどの選択をするのか、選択の幅がでてくると思う。基本的生活習慣だけでなくて、例えば、今度の国の改訂のなかで「思考力の芽生え」ということをかなり強調される予定なので、思考力を育てること１つをとってもバリエーションとして、どういうものをあげるのだろうかという事を考えていけばよいと思う。今回、ビジュアル化することで、具体的にあげていったところがあると思うが、更に具体的に、先生方が使いやすいように、各園で使いやすいようになっていくのではないかなと思っている。 　先の展望が認められるのであれば、最大限、盛り込めるとこは盛り込み、ちょっと難しいところは、次年度以降にまかせたい。
委員 （学識経験者）	この度、先生方が写真１枚を撮っていただくのも、普段の子どもの様子ではあったものの、普段の子どもの様子の写真を使うというのは難しかったのではないかと思う。普段の子どもの様子を撮るということは、保護者に買っていただく写真を撮るという意味で、先生方は撮っておられたと思うが、その写真を使うというのは、その場面にそぐう物ではなかったと思うので、意図的に写真を撮っていただかないといけない場面の方が多かったのではないかと思う。 　小学校のように発問内容まで考えて保育をしているのでなく、子どもたちがどのような言葉を言ってくれるのかはもちろん、予想できないところもあるかと思う。ある程度、先生方は子どもの様子を予想しながら環境を用意し、どのような言葉をかけていくのかというのは子どもの状態を見ながら、発達を促すために主体的な活動を促すために、いろいろ工夫しながらその場に応じた言葉がけをしておられると思うので、そのあたりは教育・保育という大きな枠の中であっても、マニュアル通りに進んでいくものでない難しさがある中で、日々保育をされておられるのではないかと思った。 　先生方が普段の保育に加えて、この資料作成という負担がすごくあったと思うが、すごくいいものができあがってきているので、あと２回の会議の中で横のつながりも含めながら、検討していけたらと思っている。
	昼寝１つにしても、次の統合幼稚園の３歳、４歳、５歳で何時にごはんを食べて、何時にお迎えなのか。昼寝１つにしても、３歳に

部会長	は必要ないのではといっても、一人ひとりを見たときに、ほんとにみんなが必要ないのかというと、決してそうではない。必要な子もあるし、必要ではない子もある。基本的生活習慣はとても難しい。「うちの園はこうです」と現場の先生は言われることも気になる、本当に正しい事をしているのか日々悩んで、何でしているのか何のためにするのかというのが、とても大切ではないかと思う。 カリキュラムについては、９月25日までという限られた日数の中であるが、私たちの日々の保育の指針になるようにまとめていただけると嬉しく思う。今日の意見を若干参考にして作っていただきたい。また、最後に先生方の意見を集約して作っていただきたい。よろしくお願いします。
⑵　その他	
部会長	事務局より提案いただく議案等は。
事務局	１点「西脇市の新たな就学前教育・保育説明会」の実施予定について説明させていただく。 御承知の通り、来年度から西脇市は幼稚園が８園閉じ、新たに１園が開園する。保育所、認定子ども園については、新たに６つできる節目の年になっている。この秋、西脇市の新たな幼稚園教育・保育の説明会を開催させていただく。その中には、今日の話も一部関連してくる内容もある。１回目は10月２日の日曜日、午後３時から市民会館中ホール、第２回目は、10月３日月曜日、午後７時30分から市民会館中ホール、最後に10月４日火曜日、午後７時30分からマナビータホールで開催する。市の広報または、ホームページでお知らせする予定にしている。内容は、市立幼稚園の概要、認定こども園の概要、募集要項、質疑応答という流れになる。出来るだけ地域の方また保護者の方の周知を図りたいと思っている。
３　閉会	
部会長	本日予定していた議事は終了する。他に何かご意見、ご質問は。 本日はビジュアル化カリキュラム（案）について、中間報告を行なった。次回の９月26日（月）の「第３回教育・保育部会」で最終案を上程し、10月26日（水）の子ども・子育て会議において、部会長の私より提案説明をさせていただくことになる。委員の皆様、進行にご協力いただきありがとうございました。